

第 11 回 今泉工場建替検討委員会 議事録

【日時】 令和 7 年 6 月 3 日 (火) 17:30～18:10

【場所】 仙台市環境局 6 階会議室

【出席委員】 5 名

委員長	松八重 一代	(東北大学大学院環境科学研究科教授)
副委員長	北條 俊昌	(東北工業大学工学部都市工学課程准教授)
委員	齋藤 優子	(東北大学大学院環境科学研究科教授)
委員	藤原 周史	(一般財団法人日本環境衛生センター理事)
委員	八鍬 浩	(公益社団法人全国都市清掃会議技術部長)

【事務局】

加藤施設部長、高橋資源循環企画課長、竹内施設課長、
相澤今泉工場再整備担当課長、渡辺施設課建設第二係長

【オブザーバー（今泉工場建替事業基本計画策定等業務委託受託者）】

(株)エイト日本技術開発（中川、籠谷）

【次第】

- 1 開会
- 2 議事等
 - (1) 今泉工場建替基本計画（最終案）について
- 3 その他
- 4 閉会

【議事等】

(1) 今泉工場建替基本計画（最終案）について

発言者	発言要旨
藤原委員	76、77 ページの財源計画の考え方は、一般廃棄物処理事業債の活用を念頭に整理されている。一方、積極発電する場合は、発電量に占める売電量の割合が 50%を超えると、地方債の対象とならないことが国から示されている。この点も含めて、計画書での記載方法等について検討下さい。
事務局 (相澤担当課長)	今回の計画書では、一般的な考え方を整理した。発電事業として売電割合によって対象になる、ならないは承知しているところだが、現時点で対応方法は決まっていない状態である。
事務局 (加藤施設部長)	現時点で高効率発電を行うと計画書にしているものの、最先端の超高圧ボイラーを用いた発電を行うことを決定しているものではなく、場合によってはそれよりも一世代前の技術とすることも考えている。今後精査していきたい。
八鍬委員	12 ページについて、都市ガスについては新たに供給ラインを敷設すると記載されているが、例えば、地震など災害時にも使えるというものを敷設するとの意味合いで書かれていると考えて良いか。
事務局 (相澤担当課長)	ライフラインの在り方については、災害対策の観点からも二重化とする方針であるが、今泉工場周辺の敷地には都市ガスの配管自体が来ていないため、都市ガスの供給ラインを敷設する計画としている。また、都市ガスの供給が止まる可能性は、昔よりは低くなっており、仮に都市ガスが止まった場合でも、備蓄燃料で代替することにより、二重化とする方向で検討しているところである。
齋藤委員	最終案に至るまで、細かく検討いただいているが、その上で、計画のなかで明確に決定しているものの他に、「検討します」「協議します」という箇所が随所にある。今後、どのようなスケジュールで進めていくのか検討しておく必要がある。
事務局 (相澤担当課長)	一般的には基本計画の策定後、工事発注までには 1、2 年の期間を要する。今回の基本計画をベースにしつつ、プラントメーカーの意見などを踏まえながら、仕様書という形で具体化していきたいと考えている。
北条委員	パブリックコメントの中で、温水プールなど近隣施設に関する意見もでており、この点は引き続き検討いただきたい。また、ごみの減量化に関する意見もあったので、建て替えのタイミングを有効に活用して、市民への啓発などにつなげていただきたい。
事務局 (相澤担当課長)	関係各所とも連携して対応していきたい。
八鍬委員	資料 2 の 9 番にコンバインド方式のバイオガス化（メタン発酵）施設も検討しましたが、とあるが、リチウムイオン電池の混入による

	事故は、バイオガス化施設に限らず様々な施設で生じている。コンバインドに繋げていることに何か理由があるのか。
事務局 (相澤担当課長)	一般的なストーカ方式と異なり、コンバインド方式は前破碎が必要と認識しているため、リチウムイオン電池が混入した際は問題になると考えている。
八鍬委員	リチウムイオン電池についてはコンバインド方式に限らず問題となっていることが多いので、注意いただいたほうが良いと考える。
松八重委員長	メタン発酵を行わない理由として事故を挙げているが、それが直接的な理由ということには違和感がある。むしろ、コスト増の理由の方が大きいので、そちらの記載だけで良いのではないか。
藤原委員	敷地面積などの問題もあったと考えられることから、回答内容を再検討してもよいのではないか。
事務局 (相澤担当課長)	ご意見を踏まえ、今後の説明においてはコストや敷地面積が課題であることが伝わるよう説明内容に配慮したい。
松八重委員長	今回の検討の中で「今後検討いたします」と記載したところに、パブリックコメントで市民が要求している内容が含まれていると感じる。齋藤委員のコメントのとおり、今後の議論が肝心である。 二酸化炭素の回収に関しては、将来的な拡張用地の記載もあるため、基本計画の中では記載の内容で良いと思われる。今後、環境局のみで検討できる余地は少ないと思われるが、誰がやるのだというのは常に問題になるが、着手いただいて、ぜひ周辺の地域をつなぐような形で運用していただけることを期待する。

以上